

## 第4学年 社会科学習の実践

1 単元名 「地域で受けつがれてきたもの」  
(全10時間 本時7時間目)

2 単元目標

○地域の伝統と文化について、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動や各種の具体的資料を通して必要な情報を調べまとめる技能を身に着けるようにする。

○地域の伝統と文化の特色や相互の関連、意味を考える力、社会にみられる課題を把握してその解決に向行けて社会へのかかわりを選択判断する力・考えたことや選択判断したことを表現する力を養う。

○地域の伝統と文化について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度やよりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

3 「ひびきあう三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題「子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」  
手だて・・・子どもの願いや思いを見とった単元構想と授業づくり  
中学年ブロックテーマ「追究する力、仲間と支え合う自分」  
・自分の問題をとことん追究する姿 ・仲間と協働して追究する姿

### <聴く・話すについての指導>

「ひびき合う」ということについて、認め合えることを大切にしようと話し合った。そして、前期は、「聴く」ということは、できるようになってきたと感じている。しかし、自分の考えを伝えるということは、自信がなかったり、間違ったときに周りの人にどう思われるかが気になったりして発言できないことが多いようである。そこで、考えをノートに書いたり、3人グループで考えを共有したりする時間を大切にしているが、少人数でも聴くだけの児童はいる。

### <これまでの関わり合い・ひびき合い>

国語「ごんぎつね」の学習では、ごんの気持ちを、「一人ぼっちだからさみしい」「子狐だもん。しかたないよね。」「でも、やりすぎはいけない。」と、自分たちの行動（友達との関わりや家族との関係など実体験）と重ね合わせながら話すことができた。そこで、共感したり、相違点を見つけたりしながら、身近に考えることで、素直な思いをひびき合うことができる。しかし、自分の共感できないことに関しては、なかなか思いを持つことができにくい。社会の学習の「地域の偉人・二宮金次郎」では、「そうなんだ。」「へー。」で終わってしまうことが多かった。自分とどう関わらせて自分事として考えられるようにするかが、「話したい!」「伝えたい!」の基本になっているため、「自分はどう思うか」を必ず問いかけるようにしている。

総合的な学習では、自分の思いが強く、話し合いの中でも思いを押し付けてしまったり、妥協点を見いだせなかったりして、話し合いが平行線で終わることもある。そのため、譲ってもらったら、「ありがとう。次は譲るね。」「自分の思いも通したいけど、どうすれば、みんなが納得してくれるだろう?」と考えることが大切だと話しているところである。

#### 4 単元と指導について

##### <単元について>

本単元では、日本が誇る伝統工芸品の一つとして昭和59年5月31日に経済産業大臣(元通商産業大臣)指定の「伝統的工芸品」に指定を受けた「小田原漆器」について取り上げる。小田原漆器の良さや歴史を理解することで、小田原漆器を受け継いできた人々の工夫や努力に気づくことをねらいとしている。また、学習の中で神奈川県地形や産業・交通網と「小田原漆器」との繋がりにも目を向けることで、土地の特性を生かした産業を活用していることにも気づかせていきたいと考えている。

##### <指導について>

国語の「世界に受けつがれる和紙」で、伝統工芸の良さやその土地の良さを活かして何年も受け継がれていることを知ることができた。そして、本単元の導入では、神奈川県に受け継がれていることにどんな事があるかを調べることから始めた。お祭りや小田原提灯や伝統工芸品は、始めた人の思いに寄り添いながら受け継ぐ人の思いも加わり、伝統として受け継がれているので、「わたしたちも、受け継いでいかなければ!」「今の時代で終わらせてはいけない!」と強く思いをもっていた。神奈川県の伝統工芸品には、「鎌倉彫」「箱根細工」「小田原漆器」の3つあることを知ったが、小田原漆器について知っている子が少なく「小田原漆器って何?」「調べてみたい」と調べることにした。「どんな物があるの?」「どうやって作られるの?」「いつから作られているの?歴史を知りたい」などについて調べ、そして、「僕たちが守っていく!」という気持ちを子どもたちは、強くしていった。「小田原漆器って、どんなもの?」では、家に小田原漆器があるという子たちが22人いて、家から持ってきてくれた。実際に触ってみて、木の良さや手触り、熱いものを入れても持つのが、持ちやすいなど、たくさんの良さを感じ、受け継ぐ度(自分が受け継ぎたいと思う気持ち)は、100だった。しかし、「どうやって作られるの?」では、職人さんの思いもわかるが、職人になるまでに10年もかかり無給だと知り、受け継ぐ度は、0~15に減ってしまった。そして、「小田原漆器の歴史」を知ることで、北条氏の権力や小田原の昔は、住みやすくて、東海道を通った旅人(観光客)が多くて、最先端の技術が集まっていることを知り、誇りに思うと同時に、やっぱり守っていかなければ!と受け継ぐ度が60ぐらいまで回復した。本時は、「僕たちが守っていく!」方法として「どうやって守っていくか」を話し合う。ホスターを書くとか広告をすとかという表面的な活動を子どもたちは思いついて話すだろうが「なんのために」買ってもらうため?高いけど?使う良さを知ってもらうため・・・ということや「誰にむけて」という2点に焦点を当てながら、自分ができるところを考える姿を響き合う姿としたい。消費者・製造者の思いや視点を入れながら、話し合うことで、「自分が買うとしたら、自分はどんな物を作りたい」と自分事として考えられるだろう。また、最後に、自分たちの考えを今、小田原漆器を守ろうとしている人に提案してみようとするかどうかなどを考えると、自分たちが歴史を作っていくかもしれないというワクワク感を持つと考えている。

単元目標

○地域の伝統と文化について、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動や各種の具体的な資料を通して必要な情報を調べまとめる技能を身に着けるようにする。

○地域の伝統と文化の特色や相互の関連、意味を考える力、社会にみられる課題を把握してその解決に向行けて社会へのかかわりを選択判断する力・考えたことや選択判断したことを表現する力を養う。

○地域の伝統と文化について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度やよりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

国語「世界にほこる和紙」  
伝統工芸のリーフレットを作ろう

- ・本物を見てみたい。家にあるよ。
- ・リーフレットを見て、すごい手が入っているんだと思った
- ・信州刀は、川中島の戦いから鍛冶屋さんが集まって作られるようになったんだね。
- ・琉球ビードロは、アメリカ軍と関係があったんだね
- ・わっはは、秋田杉を使っているんだね。それぞれの地域で有名なものが伝統工芸になってきているんだね。
- ・神奈川の有名な伝統工芸は、鎌倉彫 小田原漆器 箱根細工があるんだね。

① 伝統工芸品は、どっち？

- ・江戸切子・琉球ビードロ・寄木細工・輪島塗・大島紗
- ・小田原漆器

「伝統工芸」について、関心をもち、学習課題を作る。  
(関心意欲)

- ・きれいだな。・手触りが違う。・手作りだから気持ちが変わる。
- ・箱根細工や鎌倉彫は見たことあったけど、小田原漆器って有名なんだろう
- ・小田原漆器について調べてみたい
- ・伝統工芸だから受け継がれてきたものなんだよ。・初めて人の思いもつながって守られているんだよ。・人の願いがあるんだよ。小田原漆器を守っていききたい！

② ③ ④ ⑤ 小田原漆器について調べてみたい

・どんなものがあるんだろう？

・どんなふう zu 作られるんだろう？

・いつからあるんだろう？歴史を知りたい

② どんなものがあるの？

- ・お碗や食器が多いんだって
- ・30年は使えるものを考えているんだって
- ・家で使っているよ

持ってくるね

- ③・手触りがやっぱりいい
- ・熱いものを食べるときに、持つところが熱すぎないんだよ
- ・木の香りがいい
- ・作る人の気持ちが伝わるね。
- ・受け継ぎたい度 100

④ どんなふう zu 作られるんだろう？

- ・けやきやさくらで作られることが多いんだって
- ・一つのものを作るのに手作業で削ったり、漆を塗ったりするんだって
- ・削る人と塗る人がいるみたい
- ・伝統工芸士になるのに10年かかり無給だよ聞くの大変だと思う。
- ・好きな人は多いけど
- ・若い人がやらなきゃいけない
- ・でも、後を継ぐって。自分の家の後は継ぎたくないから
- ・受け継ぎたい度 15

⑤ いつからあるんだろう？歴史を知りたい

- ・室町時代からある
- ・箱根や小田原の木を使ったんだって
- ・北条氏康の時に漆師を全国から読んだんだって
- ・この辺りにはたくさんの気があったから使われたんだね
- ・実用品として使われていたんだって。
- ・船とかで移動するときに軽くて壊れにくいから使われたらしい
- ・北条氏の権力を見せつけるために始めたんだね。北条氏は、栃木県あたりまで領土があるんだから、住みやすいところだったのかも知れない。
- ・(小田原はニューヨークみたいな時代の最先端だったんだね
- ・江戸時代になって、東海道を通して全国に広がったみたい。お土産品や実用品としてよかったみたい。江戸も世界の中で人口が多かったみたいだから江戸でも爆発的に人気になったらしいよ
- ・受け継ぎたい度 30

調べたことを記録することができる。(技能・表現)

- ・すごい、いいものなんだけど、伝統工芸士は2人しかいないんだって
- ・え？なくなってしまうの？ 守っていききたいな。・守り切れないな。

⑥ ⑦ 本時 どうやったら、小田原漆器を守れるんだろう？

職人の思い

- ・チラシを作って広告をする
- ・良さを伝える
- ・イベントをする
- ・外国人に紹介する

消費者

良さ

グループで、話し合い、疑問や考えを共有させる

伝統工芸について、理解することができる(知識)

⑧ ⑨ ⑩ 園部産業さんに提案して守っていききたい

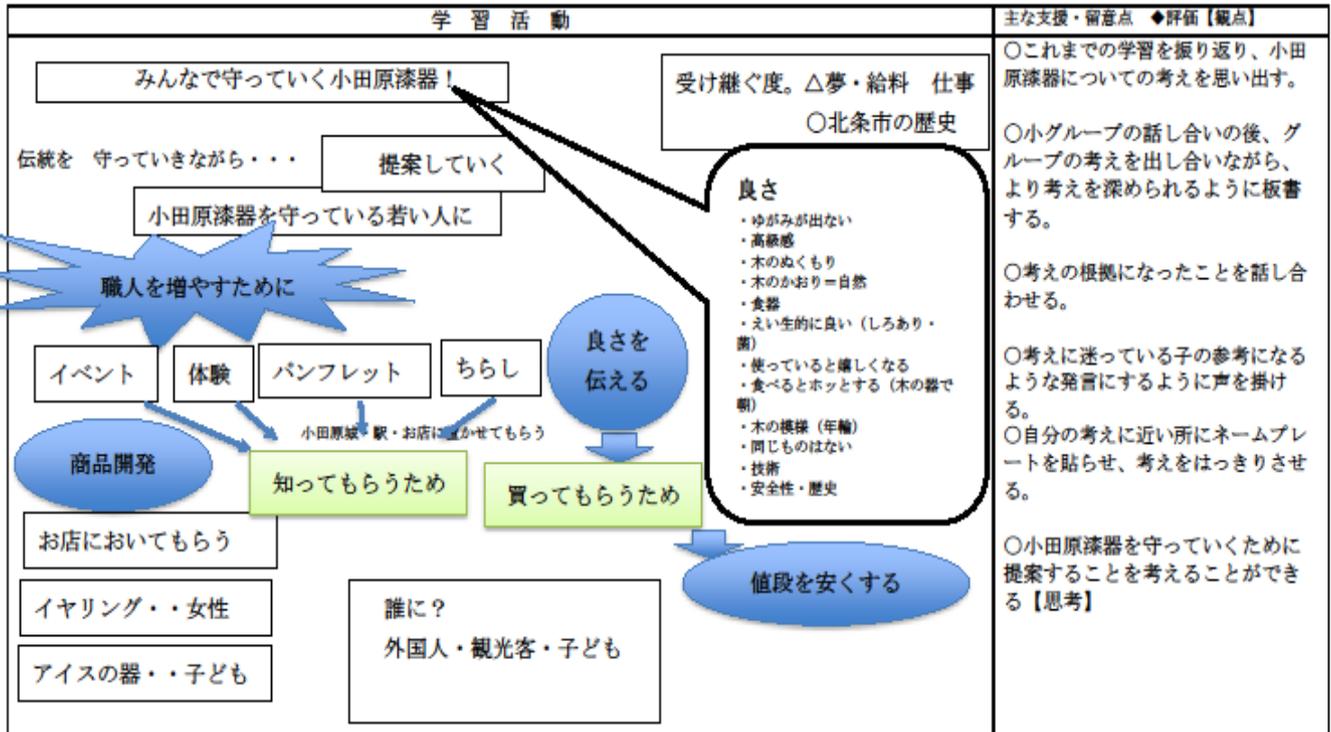
デザイン(子ども)(外国人)(女性)

お店おいてもらう

## 6 本時について

(1) 本時目標 自分たちが小田原漆器を守るためにどんなことができるのか、消費者や製造者の視点を考えながら話し合うことができる

(2) 本時展開



## 7 実践を終えて

<本時に至るまでの経過>

国語の伝統工芸の良さを知る学習をすることで、伝統は、技術だけではなく作る人や使う人の心も受け継がれているということに深い感銘を受けていた。だからこそ、小田原の伝統を守っていかなければならないと強く思うことができた。また、小田原漆器を作る大変さや良さを学習し、安全性や使いやすさなどを集約すると小田原漆器の良さは、「毎日使うと温かな気持ちになるところだ」と考えることができた。しかし、自分が「その職業を受け継ぐ」ということには、二の足を踏んでしまう。自分の家の稼業も、できれば受け継ぎたくないと思う児童もいる。その理由は、自分の夢をかなえたいということと、家の人の苦勞を目で見て感じているからだという。そんな中で、「みんなで守っていく！小田原漆器」を合言葉に活動しようと考え始めた。

ノート指導については、調べたことを自分の言葉で、わかりやすくまとめるということを目指してきた。本や資料、インターネット検索の言葉をそのまま使ってしまうことが多かった。そこで、調べたことの写真やグラフをノートに必ず貼って、そこからわかることや自分の考えを書くようにしてきた。コピーをしてそのまま写す児童が多かったが、自分の言葉で表すとすると、わからない言葉や読めない言葉が多くあることに気づき、本当の意味で資料の読み取りができるようになってきた。

<本時での様子>

「みんなで守っていく！小田原漆器」を合言葉に、①まず興味を持ってもらう・知ってもらう②職人を増やすためにどんなことができるか、について話し合っていた。体験してもらう お店で使ってもらう デザインを考える について、子どもたちはこれまでの経験を生かして話すことができた。子どもたちの思いはとても強く、考えを述べるできていた。

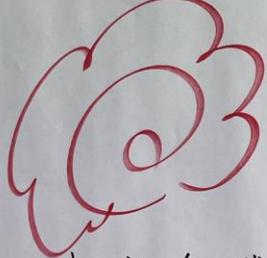
<単元を通しての成果と課題>

本時の後、小田原の木工職人さんの園部さんに自分たちの考えを聞いてもらうことができた。そして、体験活動やお店で使ってもらう方法などに耳を傾けてもらい子どもたちもうれしそうであった。また、小田原かまぼこ祭りに出店できるように、かまぼこ屋さんが手配をしてくれたことで、子どもたちの思いが現実になりそうなので、目を輝かせて準備活動をしている。

小田原という地域教材を取り扱うことで、自分たちの生活と重なる部分があり子どもたちは意欲的に学習を進めることができ、自分の言葉で考えを伝えたり、絵で表したりすることができた。そして、地域の方の協力により、自分たちの考えを実際に具現化できるところに喜びを感じている。しかし、思っていたのと違ったことも多くあり、「なかなかうまくいかないね。でも、まず、始めることが大事じゃない。できることがいいんじゃない。」と子どもたちが話す言葉を聞いて、地域で育つ良さを実感した。

11/24 NO4 | 社会「地域で受け取られてきたもの」

みんなで作っていき、小田原の器



現実的にも3にも目を向けるから  
小田原漆器を守っていくための  
提案を~~案~~案  
考える

- クラス全体で話し合いが進んでいた。
- 調べたもの・経験したものから自分の考えを述べていた。
- 消費者と製造者2つの目線で考えられていた。
- 意図的指名◎ → 様々な視点 → 発表会に繋がった
- 問い返し◎
- 単現がクラスにあっていた。

意見はあるが発言できない子がいた。  
現実的なアイデアがもう少し挙げればよかった。  
(3人の子が発表していた)

意図的指名のタイミング

現実的 (アイデアのバリエーション) 複雑  
↓  
夢 (不可能)

ひびき合い